

人づくり まちづくり 情報誌

あくていぶ

No.

65

平成29年(2017)

3月15日号



わがまちたかつき
切り絵紀行

「右近と
カトリック高槻教会」

切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

あちこち訪問

への まつ

舩松人権歴史館(堺市立人権ふれあいセンター)

「あくていぶ」は行動的、活動的な心と心のふれあいを求めて名づけられました

地域の歴史を語りつく

堺市立人権ふれあいセンター

へ^のまつ 舢松人権歴史館

平成27年4月にリニューアル

今回のあちこち訪問は、平成27年4月にリニューアルオープンした堺市立人権ふれあいセンター「舢松人権歴史館」です。この施設は、同和問題の啓発と学習を目的として、部落差別に関する歴史や実態をグラフィックや実物資料、再現模型などで紹介しており、展示室と阪田三吉記念室、人権資料・図書室で構成されています。



展示室

展示室は、《しごと・くらし・歴史・教育・啓発》の5つのコーナーから構成され見やすいレイアウトがされています。「しごと」コーナーでは、当時の舢松での仕事だった靴直しや履物行商などを紹介。また、約40年前の地域の様子を、模型を使って展示した「くらし」コーナーでは、四畳半の狭い住宅での生活風景や「はんらく」と呼ばれた狭い路地などが再現され目を引きま

感想

ゆったりとした館内の片隅に「古い長屋」が目に入ってきた。改良住宅が建設されるまで多くの人たちが、そこで生活していた。共同井戸や共同便所、不衛生で劣悪な住環境の中で生活しなければならなかった当時の様子がうかがえた。

差別が生んだ貧困のむごさを肌で感じる事ができた。「私は差別をしない」という気持ちを強く持った。

舢松の厳しい歴史の一端を垣間見た気がする。差別にほんろうされた日々や悲惨な体験の「魂の叫び」がズッシリと伝わってくるようだった。

案内をしていただいた職員さんの「生活や教育・環境は改善されてきているが、結婚差別は根深く残り若い人に厚い壁となり今も苦しめている。舢松の歴史を子どもたちに、きちんと伝えていくことが自分の使命と思っている」といったお話が印象的だった。



▲当時の様子を再現した「はんらく」と呼ばれる狭い路地

阪田三吉記念室

舩松出身の将棋名人・阪田三吉のゆかりの品や記録写真が展示されています。



コラム Column

動物の死は、かなしい？

学校飼育活動から学んだ「命」をつなぐ営み

高槻市人権まちづくり協会 人権啓発指導員 岩崎 律雄

皆さんは、子ども通っていた学校に「飼育小屋」があり、うさぎやニワトリがいたという記憶はありませんか。「飼育委員会」活動で動物の世話をした思い出はありませんか。

私は、37年間に及ぶ教員生活でこだわってきたことの一つに学校飼育活動があります。今回は、学校での動物飼育からみる人権について取り上げ考えてみます。

「命」と「ぬくもり」を感じる「まきたどうぶつえん」

牧田小学校への転任を機に、てづくりの飼育小屋を完成。飼育活動のコンセプトは、「命」と「ぬくもり」を感じる飼育活動です。大切にされたのが動物の「命」を子ども自身の肌で感じてもらいたかったのです。

学校で飼っているニワトリを食べてもいいの？

以前、ある学校で、飼っているニワトリを先生が食べた出来事がありました。食べた先生は、子どもたちに「君たちも家で鶏のから揚げをたべるでしょ！どうして同じニワトリなのに！」と。また、東京のある教育の実践者として有名な先生が、「ブタを育てて、丸々食べる」という実践をされたと聞いています。

学校飼育動物は、あくまで学校の教育活動として位置づけ、その中で「命」を感じ、その「命」を受け継いでいくことが目的です。最後は殺して人間の食卓にのせるためではありません。「食べてはいけない動物」と私は思っています。

子供たちが会おう「生」と「死」

学校飼育現場では、沢山の動物たちの「生」と「死」を子どもたちは目にします。野犬に襲われ、初めて学校で生まれた可愛い子ヤギが野犬の鋭い牙（きば）のかみ傷を残し死んでいきました。せっかく生まれたうさぎの赤ちゃんは妊娠がわからず小屋の外で産み捨てられ、母うさぎも子育てが出来ずに死んでいきました。

動物たちの「死」に出会うたびに、子どもたちは、悲しみ涙し、自分たちを責める子もいます。どうしたら「命」は守られたのか…。そして「命」を守るためにみんなで考えるのです。

「命」をつなぐ営みは、人権教育の原点

私は、飼育活動の中で子どもたちとともに沢山の事を学ばせてもらいました。「命」をつなぐことの大変さ、世話をする子どもたちの優しさ、根気強さと仲間意識も。

いまでも子どもたちは、学年が上がるとともに飼育活動から離れていきますが、高学年の姿をみていた低学年の子どもたちが、確実にその意思をついで飼育小屋の住人である動物の「命」を守りつないでくれています。

私は、学校飼育活動の中で動物たちの「命」をつなぐ営みは、人権教育の原点だと思っています。



人権を考える市民のつどい

大切な人への『想い』を語る 清水健さんの講演会は超満員

—— 啓発作品の表彰式やパネル展示も ——

平成28年12月9日と10日の2日間にわたり、人権週間記念事業の一環として、「人権を考える市民のつどい」を市生涯学習センターで開催しました。

1階展示ホールでは、特別展「難病の理解のために」と題したパネル展や人権啓発作品入選作の展示、また10日には、「シミケン」の愛称で親しまれている元ニュースキャスターの清水健さんを招き、多目的ホールで「大切な人の想いととも」と題し講演会を開催しました。講演会は、定員300名に対し400名以上の来場者が訪れ、会場に入れない人も出るなど大盛況の講演会となりました。



◎ 講演内容の抜粋

大切な人の「想い」とともに

清水健さんは元ニュースキャスターとして活躍され、スタイリストであった奈緒さんと2013年に結婚。幸せ絶頂の中、奈緒さんの妊娠中に乳がんが判明。産まれてくる子どもと「3人」で生きることを選択したが、結婚生活1年9か月、長男を出産して3か月、奈緒さんは112日間のママという短い命でした。

療養中もたえず周りに気遣い、弱音をはかずに生きることを諦めない奈緒さんに、今でも、もっともっとできたことがあったのではないかと後悔の念でいっぱいになるという。

「悲しみにピリオドはなく、永遠に葛藤は続く。今、自分ができることは、病や困難なことと向き合って必死に闘っておられる方を支えたいとの思いをもとに、がん撲滅、難病対策等を目的として基金を設立しました。一人ひとりが大切な人へ想いを向け、その想いが人から人へ広がっていくことを願ってこれから私自身も頑張っていきます。」というお話に、会場から大きな拍手が送られました。

立ち見が出るほどの満員の会場、そしてモニターを通してロビーで講演を聞いておられた方も、清水健さんの温かい想いと力強い決意に、優しさと勇気をたくさんいただいた講演会でした。

清水健さんの
サイン入り色紙を抽選で
3名様にプレゼント!

【応募方法】 4月10日(月)までに、ハガキまたはFAXに①色紙希望②住所③氏名④電話番号⑤あくていぶについての感想を明記の上、〒569-0067 高槻市桃園町1-1 Mビル201「高槻市人権まちづくり協会」宛てまでお送り下さい。FAXの方は、072-674-7877へ。
【当選発表】 厳正な抽選の上、当選者への通知をもって発表に代えさせていただきます。

人権啓発作品入選者を表彰

人権週間記念事業の一環として、作文、絵画、標語の3部門で啓発作品を募集したところ、合計2,640点の応募がありました。審査の結果、各部門ごとに最優秀1点、優秀4点、佳作10点を入選作として選定し、1階展示ホールに2日間にわたり入選作品の展示を行いました。また、10日、多目的ホールで、市長から入選者の方に表彰状と記念品が授与されました。

なお、入選作は、この後、今城塚公民館など市内5会場でも巡回展示を行いました。



▲市長から表彰される入選者



▲絵画の最優秀作品

難病テーマにパネル展

1階展示ホールを利用し、難病に対する理解や支援を目的に、指定難病の一覧や難病者に対する民間団体の活動、就労支援の取り組みなどを紹介するパネル展を開催しました。



▲パネルを見る参加者

平成28年度人権啓発作品入選者一覧

作文の部

入選	氏名	作品名	学校名等
最優秀賞	反保 風香	お母さんはすごい	阿武山中3年
優秀賞	岡林 歩実	戦争を無くすために意識すること	清水小6年
優秀賞	川村 凌司	話し合うことが平和への一歩	清水小6年
優秀賞	照屋 花梨	LINEの怖さ	第一中2年
優秀賞	井田 英伸	人と接するにあたって	阿武山中3年
佳作	▶野村宥菜(清水小6年)▶山下未来(清水小6年)▶宮下桃佳(芝谷中2年)▶大島悠汰(阿武山中3年)▶武智妃菜子(阿武山中3年)▶中園孟留(阿武山中3年)▶吉田翔(阿武山中3年)▶川脇未桜(阿武山中3年)▶小林大起(阿武山中3年)		

標語の部

入選	氏名	作品名	学校名等
最優秀賞	末吉 夕月	ほっとけへん ないてるともだち どうしたん?	若松小1年
優秀賞	大久保 悠	この世には いらぬ命は一つもない	大冠小4年
優秀賞	井尻 衣咲	たすけあい 生まれる力 無限大	桜台小5年
優秀賞	後藤 晏奈	いじめる人、見てる人 一番強いのは、止める人	松原小5年
優秀賞	布川 裕大	握るのは、兵器ではなく 互いの手	第四中3年
佳作	▶永田歩夢(大冠小2年)▶田中泉輝(桜台小5年)▶大槻早紀(赤大路小6年)▶正野弘都(冠小3年)▶針山涼音(寿栄小3年)▶齋藤俊介(松原小5年)▶杉本碧生(若松小1年)▶西村篤哉(若松小4年)▶肥後創大(第九中1年)		

絵画の部

入選	氏名	作品名	学校名等
最優秀賞	小笹 真実	人権ポスター	阿武山中1年
優秀賞	細川優美子	いじめSTOP	桜台小6年
優秀賞	安藤 凜香	いじめをなくそう	桜台小1年
優秀賞	板谷ひなた	友達広げれ	寿栄小5年
優秀賞	谷川 侑七	無題	阿武山中2年
佳作	▶片山嵩琉(桜台小6年)▶桑嶋菜々子(桜台小6年)▶池ノ上結良(郡家小6年)▶富田聖香(郡家小6年)▶南川文音(寿栄小5年)▶永田一平(寿栄小5年)▶坂地由実子(土室小6年)▶針辻彩圭(丸橋小6年)▶浅沼ゆり子(北日吉台小4年)▶中山明歩(寿栄小5年)		

参加者の声から

人権というと、イコール「同和問題」のイメージが強く植え付けられた世代ですが、最近の講演会は幅広くどれも新鮮で楽しみにしています。「人権」が人の生活のいろいろな場面で基本になり、それら人の権利の一つひとつが大切にされることが普通になればなるほど、すべての人が生きやすい世の中になる、と講演会などに参加するたびに思います。

まちづくり協会では、これからも、様々な人権に関するテーマで講演会を市内のあちこちで開催します。機会があればぜひご参加ください。

地域が元気にいきいきと

高槻市人権まちづくり協会では、人と人とのつながりを大切に、中学校区ごとに地区単位会を設置し、地域のさまざまな団体と連携しながら、人権講座や研修会の開催など市民が中心の草の根人権啓発活動によるまちづくりに取り組んでいます。

性同一性障がいのボクサーを招き 七中単位会で講演会

七中単位会が、性同一性障がいを公表している女子プロボクシング元世界王者の真道ゴーさんを招いて講演会を開催。

幼い頃から「女の子」であることに違和感を感じながら過ごした子ども時代やボクシングとの出会い、ありのままの自分で生きようとした思い、など新鮮で感動的なお話でした。



城南中単位会が 「平和と人権のつどい」

「音楽は言葉だ！夢よ届け！」をテーマに、春日ふれあい文化センターで開催されました。当日は、URANO（ウラノ）バンドコンサートとして車いすミュージシャンの浦野さん率いるバンドメンバーがオリジナル曲など10曲を披露。子どもたちの飛び入り参加もあり、120名の参加者で熱気に包まれました。



第7回ミニ平和展（六中・冠中単位会）



ミニ平和展と紙芝居の上演（芝谷中単位会）



単位会の活動紹介

校区名	主な活動内容	校区名	主な活動内容
一中	日時 平成28年12月9日(金) テーマ 講演「わたしが女性装する理由」 講師 東大教授 安富 歩(あゆむ)さん 参加者 100人	十中	日時 平成28年10月15日(土) テーマ 講演「スマホやネットに潜むキケン!」 講師 篠原 嘉一さん (元兵庫県警サイバー犯罪対策アドバイザー) 参加者 200人 その他 社協竹の内地区福祉委員会主催のふれあい広場に参加し人権パネルの展示等。十中ブロック青少年健全育成連絡協議会と共催で「たそがれコンサート」など
二中	日時 平成29年1月26日(木) テーマ 講演「父の戦争体験を語り継ぐ」 参加者 36人		阿武野・阿武山中
四中	日時 平成28年9月23日(金) テーマ 講演「輝く命のために」 講師 助産師 山本 文子さん 参加者 400人 その他 連続講座「富田ものがたり」など	城南中	日時 平成28年8月27日(土) テーマ 平和と人権のつどい 参加者 120人 その他 地域交流「桜を見る会」を開催
六中・冠中 共催	日時 平成28年9月1日(木)～15日(木) テーマ 第7回ミニ平和展 参加者 約700人 その他 講演「人の心が人の心を変えるとき」など	川西中	日時 平成28年9月27日(火) テーマ 講演「紀州が生んだ知の巨人 南方熊楠の人となり」 講師 志村 真幸さん(南方熊楠研究者) 参加者 48人
七中	日時 平成28年7月28日(木) テーマ 講演「自分らしく生きる」 講師 プロボクサー・真道 ゴーさん 参加者 60人	如是中	日時 平成28年6月16日(木) テーマ 講演「心と心が通い合う 幸せよこむ旅」 講師 北見 貴志さん(京都観光おもてなし大使) 参加者 55人 その他 人権講座「集団疎開と大阪大空襲」など
八中	日時 平成28年11月25日(金) テーマ 講演「健康寿命は<<食>>の面白さで」 講師 元日本女子カヌーオリンピック選手・金村 祐美子さん 参加者 89人 その他 講演「おうちごはん」など	芝谷中	日時 平成28年11月24日(木) 内容 上野 千鶴子さんと考える「おひとりさまの最期」 参加者 100人 その他 地区コミュニティ連絡協議会と共催でのふれあい文化祭でミニ平和展と紙芝居の上演
九中	日時 平成28年11月16日(水) テーマ 沖縄の歴史と音楽「三線ふれあいコンサート」 参加者 86人		



東大教授・安富歩さんの講演会(一中単位会)



父の戦争体験をハープの音色をバックに(二中単位会)



フェスタ・ヒューマンライツ2016を開催

市民とのつながりや人が大切にされるまちづくりの推進などを目的に「フェスタ・ヒューマンライツ2016」を、昨年の12月4日(日)、富田ふれあい文化センターなどを中心会場として開催しました。

当日は、地元小学校の児童らによる舞台発表や和太鼓の演奏、ダンスなどのほか、移動ミュージアム、カブラ(積み木)コーナー、模擬店など多彩な催しがあり、多くの人で賑わいました。



春日ふれ文横で「桜を見る会」

今年も3月31(金)から4月8日(土)にかけて、春日ふれあい文化センター横を流れる東部排水路沿いにある桜並木で、恒例の「桜を見る会」が開かれます。

地域の方々による手作りのとうろうが桜並木にたくさん並べられ夕暮れとともに点灯されます。なお、7日の19時30分からコーラスの披露もあり(雨天中止)。

知っておきたいこんなマーク

「ほじょ犬マーク」

お店の入口などで見かけるこのマークは、身体障がい者が補助犬を同伴できることを示す啓発マークです。



身体障がい者補助犬とは、盲導犬、介助犬、聴導犬のことを言います。

私たちも補助犬に対する理解を深めましょう。



人権教育講座開催のお知らせ

◆ 子どもの育ちに大切なことって…何やろう??

今の子どもたちは、「できないこと」ばかりに注目され、「だからダメなんだ」と否定されることが多い。でも、それでいいのでしょうか。参加者と一緒に子育てについて考え、話し合う講座です。

日時：3月21日(火) 午後7時～9時

会場：富田ふれあい文化センター

講師：マザーアース・エデュケーション 大島 一さん

◆ 愛と笑顔で心をやすケアリング・クラウン

ケアリング・クラウンとは、心のケアをする道化師(クラウン)のこと。笑顔で相手に触れあうことで愛が伝わります。そんなことを楽しみながら学ぶ人を元気にさせる講座です。親子の参加も大歓迎。

日時：3月22日(水) 午前10時～正午

会場：春日ふれあい文化センター

講師：ケアリング・クラウン トンちゃん一座 石井 裕子さん

人権講演会

心の豊かさを求めて

上方落語協会所属のプロで尼僧の落語家・露の団姫さんをお招きし講演会を開催します。どんなお話が聞けますかお楽しみに。

とき 平成29年6月3日(土)
午後2時～4時

ところ 市生涯学習センター
2階多目的ホール

定員 当日先着300人



編集後記

地域の子どもの放課後見守りグループに月に何回か参加し、子どもたちから元気もらっている。子どもたちは、いつの時代も屈託なく活動的だが、毎回ゲームばかりに夢中になっている子もいる。

そのせいか、言葉数が少なく、ゲーム言葉なのか理解できない言葉もよくある。時には心ない言葉で傷ついたこともあった。

以前、子どもたちにアンケートをとった時、言われて最も嬉しい言葉は、「ありがとう」だった。男も女も、大人も子どもも関係なく、大切な言葉だと思う。